

## キックオフシンポジウム開催のご案内

### 女性の健康プロジェクト「リプロダクティブヘルス・プラットフォームの構築」

～全ての若者が教育・相談の機会を得られる社会の実現を目指して～

リプロダクティブヘルス（性と生殖に関する健康）は、「人間の生殖システムおよびその機能と活動過程のすべての側面において、単に疾病、障害がないというばかりでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態にあること」と定義されています（国際人口開発会議「行動計画」1994年）。さらに、2015年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）においてもその達成について明記されており、広く世界に認識されています。

特に他者との関係性、家族や社会の影響を受けやすい青年期の若者にとって、リプロダクティブヘルスに関する正しい知識を持ち、自ら判断、行動する能力を身につけることは、自身の健康を守り主体的にライフプランを描くうえで重要だと考えます。その中で教育が果たす役割は大きく、国際連合教育科学文化機関（UNESCO: United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization）や国連人口基金（UNFPA: United Nations Population Fund）は、2018年に国際的な性教育の指針となっている国際セクシュアリティ教育ガイダンス（International Technical Guidance on Sexuality Education）の改訂版を発表し、若者への包括的性教育（CSE: Comprehensive Sexuality Education）の必要性を提唱しました。日本においては、内閣府と文部科学省が共同で、性犯罪・性暴力の対策強化を目的とした教育カリキュラム「生命（いのち）の安全教育」を作成し2021年4月に公表しました。本カリキュラムは生命の尊さを学び、性暴力が及ぼす影響を正しく理解した上で、生命を大切に考えることや、自分や相手一人ひとりを尊重することを発達段階に応じて身につけていくことを目指しています。このように日本でもCSEの機運が高まる中、国際セクシュアリティ教育ガイダンスが推奨する基準を満たすために更なる充実が求められています。

当機構においても、2019年度に国際セクシュアリティ教育ガイダンスをベースに分野を超えた専門家の意見を収集した上で、大学生向けの包括的健康教育プログラムを構築し、2020年度には日本の大学生男女約230名を対象に効果検証を実施しました。本検証から大学生のリプロダクティブヘルスに関する教育のニーズの高さが明らかになり、さらに、包括的健康教育が学生のリプロダクティブヘルスに対する意識変容や行動変容をもたらすことが示唆されました。その一方で、知識不足や相談相手がいないこと、性暴力や性的同意が行われていないケースの存在、婦人科・産婦人科への受診のハードルの高さ等、大学生を取り巻く課題が浮き彫りとなっています。

これらを踏まえ、当機構では全ての若者にリプロダクティブヘルスに関する教育や相談の機会を提供できる社会の実現を目指して、本年度リプロダクティブヘルス・プラットフォーム「Youth Terrace（ユーステラス）」を立ち上げました。本シンポジウムでは、11月からの本格始動を前に本プラットフォームのご紹介、さらに、学生によるリレートークや有識者を招いた基調講演・特別講演に加え、産官学民のマルチステークホルダーによるパネルディスカッションを行います。本シンポジウムを通じて、グローバルな視点で日本における現状の課題や本プラットフォームを活用した今後の展望について皆さまと一緒に考え、第一歩を踏み出す場にしたいと思っておりますので、ご参加を心よりお待ちしております。

- 日時 : 2021年10月26日(火) 15:00 - 17:00 (日本時間)
- 会場 : イイノホール/Zoom ウェビナー (〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-1-1)
- 形式 : ハイブリッド形式 (会場オンラインでの登壇・参加)
- 主催 : 特定非営利活動法人 日本医療政策機構 (HGPI)
- 参加者 : 当機構 web サイトより募集
- プログラム : (敬称略・登壇依頼中含む)

15:00-15:05 開会・趣旨説明

15:05-15:15 基調講演「思春期の子どもたちへ ～一人ひとりの well-being の実現に向けて～」  
吉村 泰典 (慶應義塾大学 名誉教授)

15:15-15:25 国会議員からのビデオメッセージ

15:25-15:35 特別講演「スウェーデンに学ぶリプロダクティブヘルス政策の原動力」  
Helena Kopp Kallner (Senior consultant in Ob/Gyn, Danderyd Hospital, PhD Karolinska Institutet, Sweden)

15:35-15:50 調査報告「大学生を対象とした包括的健康教育プログラムの構築と  
効果測定調査から見たリプロダクティブヘルスプラットフォームの必要性」  
今村 優子 (日本医療政策機構 マネージャー)

15:55-16:05 若者によるリレートーク「自分らしい生き方を、自分で決めるために」  
福田 和子 (なんでないのプロジェクト 代表)  
学生代表 3 名程度

16:10-17:00 パネルディスカッション  
「産官学民で考える日本のリプロダクティブヘルス・ライツの課題と展望  
～プラットフォームがもたらす若者たちの未来～」  
パネリスト (敬称略・50 音順)  
佐藤 摩利子 (国連人口基金東京事務所 所長)  
治部 れんげ (東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 准教授)  
宋 美玄 (丸の内の森レディースクリニック 院長)  
林 伴子 (内閣府 男女共同参画局長)  
林 知礼 (オカモト株式会社 システム戦略部業務戦略グループ長代理)

モデレーター：今村 優子 (日本医療政策機構 マネージャー)

17:05-17:10 本プロジェクトへのメッセージ  
新田 歌奈子 (日本財団 公益事業部 国内事業開発チーム)

17:10-17:15 閉会の辞  
黒川 清 (日本医療政策機構 代表理事)